

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	<b>13</b>
合計	<b>100</b>

## 記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームふるさとの家「城下」
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	島原市新湊2丁目丙1830番地
記入者名 (管理者)	澤田 ハツセ
記入日	平成 20 年 10 月 20日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	運営理念である「老いても、障害を持っても、当たり前に分ららしく普通に暮らしたい」を基本とし、利用者が毎日地域の中で安心かつ安全に暮らしていけるようお手伝いをしたいと心掛けている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	職員全員で作った介護理念を荘内2か所に貼り、いつでも見られるようにしている。毎日勤務の日は見ても理念の通り取り組んでいきたいと思って実践に入るように心掛けている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	理念は見学者や、家族がいつでも見られるように見やすい所に掲示している。また利用者との行動を一緒にすることで地域の方には理解してもらえようと思う。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	挨拶はいつも自分からするように心掛けている。市民清掃などにも利用者に参加できたが秋は時間が早かった為、利用者を参加させることが出来なかったのが残念に思った。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	地域のスポーツ大会や行事には利用者と共に参加するよう心掛けている。また最近挨拶以外の言葉をかけてくださる方がいるようになったことに関してホームを少しずつ理解して下さってるんだなとうれしく思う。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の子供と利用者との交流会や敬老会など実施し、現在の家族では味わえないおじいちゃん、おばあちゃんと孫の関係を思い出してもらえよう取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	指摘のあった項目に関しては、全職員でミーティングを行い具体的な改善内容を作り上げそれに向け全員で取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た意見や要望、情報は連絡帳、口頭、職員会議で伝え、サービス向上に活かしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外あまり行き来する機会はないが、推進会議で出た意見や情報などは連絡帳や口頭で伝えサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修には参加しました。この制度を利用することで利用者が地域で安心して暮らすことができれば、必要な方には活用してほしいと思うが、自分の立場では支援するところまではいかない。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修には参加しました。法人内でも虐待防止委員会を立ち上げ勉強会もあっている。自分やスタッフの声かけ、介助など虐待に当たらないか、常に心掛けているが落ち着いた利用者や居られると全体的にゆとりがなくなり、自分をはじめとして、他スタッフも声かけの段階で虐待につながるような言葉を言っているように思う。		ゆったり、ゆっくりした気持ちでお手伝いしたいと思うが、落ち着いた方がいると、その方に一人はつきっきりになってしまう為手が足りず他の方の行動などを制止するような声かけをしてしまっているように思う。もっとゆっくりと利用者に関わりたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約や解約は直接関わっていないが、利用者や家族などの不安、疑問点に関しては、十分な説明を行い理解、納得を得ていただくよう努めている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者とは日々関わる中で意見、不満、苦情を聞いたり感じ取るように努めている。また、重度の利用者に関しては面会時や電話連絡時に意見などを聞くようにしている。</p>	<p>任せっきりの家族が多く本音を言ってもらえない。もっと本音を言ってもらい、家族と共に取り組みたと思う。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>つき一回家族へのお便りで報告したり、面会時に伝えている。また異常があった場合には、その都度連絡し経過支援報告書に記録している。職員の異動などは報告していない。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時どのように感じておられるか、尋ねている。また、苦情が出た場合には、迅速に対応しミーティングを行い、二度と同じことを繰り返さないよう徹底し、苦情報告書に記録し、日々のケアに活かしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月一回のスタッフ会議で一人一人の意見や提案を聞くようにしている。また、毎日利用者にかかわる中でも事あるごとに意見を聞き、反映させている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>電話などでいつでも対応できるようにしている。職員もその事を理解納得し、協力してくれている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>配慮はされていると思う。</p>	<p>利用者のダメージを防ぐためには移動はないほうが良いと思うが、スタッフの質の向上を考えると、4棟のスタッフの力を平均したほうが良いのではと思う。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会は与えて下さっていると思う。新入社員に関しては、OJTを取り入れ指導している。	今回介護支援専門員の研修に参加させていただき対人援助技術を勉強し、日ごろの業務を振り返ることができた。研修終了翌日より、日に日にあらゆる面で良くなって行けるよう、ゆったり、ゆっくり穏やかな態度で利用者と向き合っている。
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	スポーツ交流会や、研修会など参加する機会は作っておられる。	
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	大きなイベントの後は、お茶会を催して下さる時もある。自分自身では、庭木や草花の手入れ、好きな音楽を聞いたり、ウォーキングでストレス軽減をしている。	
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	役職も多く、忙しくされているが、時間の許す限り指導されているようである。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	意思疎通のできる方に関しては、本人から聞くように努めている。またそうでない方に関しては、表情、しぐさ、言葉じり等細かく観察し、目配り気配りを怠らないように心掛けている。	
24	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学时や、面会時など、家族より困っていること不安に思うこと、本人様の支援などどのように思われているのか、よく聞くように努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応は、代表がされているので自分にはしていない。代表からもらった情報を相談、共有し対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居をしてもらい、本人がホームに徐々に馴染めるよう、他の利用者との関係や部屋決め、食べ物の好みなどそれらを見極め、家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来ることはしてもらい、感謝の言葉を述べている。楽しい時にはともに笑い、自分も利用者から支えてもらっているという気持ちを忘れないようにしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、連絡時は意見や要望を聞き、利用者を共に支えて行くよう心掛けている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係は、基本情報で理解できることもある。また、わからないことに関しては、面会時に尋ね、より良い関係が築いていけるように心掛けている。		場合によっては、家族関係修復もケアの一部として位置づけ、より良い関係が保てるように今後とも支援していきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りや、仏様参り、また、家族が入院されているときには、病院見舞いを定期的に支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	間に入ったり、共通の話題を声かけしたり、ドライブに誘い行動を共にすることで、孤立させないようにしている。気の合う人合わない人がいるので、座る位置なども工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホームのイベントなど招待している。また、当ホームで亡くなった方のご家族が、イベントなど積極的に手伝われたり、いつでも声をかけてほしいと気軽に訪問してもらえる雰囲気作りを心がけている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通の可能な方には、希望や意向を聞くようにしている。困難な方はアセスメント情報などを参考にし、なるべく本人の意向に沿えるよう、検討するようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報 ~ の記入、及び本人、家族から話を聴き把握に努めサービス利用の経過は介護情報提供書及びサマリーにて把握している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の介護記録や申し送りなどで総合的に把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	意思疎通のできる方に関しては、本人より聞いたりしている。そうでない方に関しては、家族に聞くようにしているが、ほとんどの家族がホーム任せである為スタッフで意見を出し合い介護計画を作成しているのが現状である。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月見直し、検討とモニタリングを行い、短期目標は3か月に1度見直しを行い評価をしている。また退院時や更新時、レベル低下の場合は、モニタリングやアセスメントを行い、現状に即した新たな計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	対応した職員が日々の様子やキーワードに沿った統一したケアの実践や体調の変化、気づきなどを具体的に記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診、薬取り、又は理容院など支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	徘徊され行方不明時は警察に協力いただいたり、年2回の防災訓練には消防署や地域の消防団に協力してもらい支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護と医療が同時に必要になられた方のケアカンファレンスに出席し、その内容を持ち帰り、運営者に伝えている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営者はいろんな面で行き来されていると思うが、自分自身は行き来することがなく、運営推進会議でお会いするのみである。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が、かかりつけ医を持っているため、かかりつけ医の受診支援をしている。また、そうでない方に関しては、代表と家族が話し合いを持ち、納得を得てから決定されている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医に協力医になってもらっている。また、利用者の状態に異常があった場合は電話で相談したり受診している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職には常に利用者の状態を伝え、把握してもらい、異常があった場合でも、すぐ相談し対応してもらいながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院期間中、不安にならない様に見舞いに行ったり顔出しするようにしている。また病院関係者との情報交換や、相談には連携できるように心掛けている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に至るまでも三者で何度も話し合いを持ち、家族の心の振れ及び不安、要望等職員を含め方針の共有に努めている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期に至るまでも三者で何度も話し合いを持ち、家族の心の振れ及び不安、要望等職員を含め方針の共有に努めている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人にとってリロケーションダメージを最小限にするため関係者とは十分な情報交換をし、予防に努めるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者すべてを尊重し、プライバシーを損ねないような、声かけをするように心掛けている。また、介助や記録時も同様な気持ちで接している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>否定的な声かけをせず、利用者が自己決定できるような尋ね方をするように心掛けている。また、その方の力に合わせた説明を行い、納得してもらえるよう努めている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのペースを大切に、支援していくのが良いと思うが利用者の状態によっては、手不足になり希望に沿った支援ができない時があるのが現状である。業務優先ではなくケア優先で日々努力している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>自己決定できる方に関しては衣類など選んでもらっている。そうでない方に関しては、その方に合った身だしなみを支援するように心掛けている。理容院には一人の方を支援している。女性の方はホームでその方に合った髪形に切り、家族からは金銭的に助かるとの言葉をもらっている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>できる方には食材の皮むきや、食材切りは手伝ってもらっている。献立も季節の食材を生かしながら状態にあった調理法を用い、楽しんで食事ができるよう支援している。</p>	<p>食事制限のある方に関してはいろんな面からかかりつけ医、家族、本人と相談し検討する必要があると考えている。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>養命酒を何十年も飲まれている方が居られる。また、その方の意向に添い飴玉や、飲み物など毎日楽しんでもらっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>利用者の状態に応じて、オムツ、Rパンツ、綿パンツを使用、昼間はできる限りおむつ使用を減らし排泄を見ながら支援している。またその都度洗浄、清拭し気持ちよく過ごされるよう努めている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>利用者の好きな時間に入浴のお手伝いをしたいと思うが、現状ではやはり職員の都合で決めている。しかし、便失禁などの時は下半身浴を随時行っている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>その人の状態により、早く起きる人、昼寝をする人、遅くまで寝たい人がおり、希望に沿った支援をしている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>草履づくりや裁縫、食材の皮むき、刻み、歌や踊りなど一緒にしたり習ったりして張り合いを持ち過ごしてもらい感謝の気持ちを述べることで喜びを感じてもらえるように努めている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>一部の方は所持され、理容代など自ら払ってもらっている。家族にも月一回のお手紙と一緒に領収書を送り確認してもらっている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>利用者一人一人の状態を把握し無理のない日常的な外出支援を行っている。意思疎通のできる方に関しては、行きたい所を決めてもらう時もある。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>孫のスポーツ応援など、家族が連れて行きたくてもつれて行けない所へ優先して行くよう努めている。</p>		<p>家族を交えた小旅行を計画しているが諸都合により実施できていない。是非思い切って実施するようにしたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前は電話のできる方がいて本人が希望されていたので支援していた。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人など見えた時には正座で出迎え笑顔で対応するように心掛けている。また、温かいお茶を出しゆっくりと過ごして下さるよう心掛けている。また来たい！訪問しやすいと思われるような雰囲気作りに努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で身体拘束委員会を発足し、勉強会もあっているが、身体拘束と一言に言うが大変幅が広く、声かけ、介助、態度、視線など、もっと勉強する必要があると思っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間だけ戸締りをするようにし、昼間はどこからでも出入りできるようにしている為、見守り、及び職員の声かけを徹底し、所在確認を怠らないようにしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間で声を掛け合うこと。また見守りを徹底し、危機感、責任感を持ち、毎日を接している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミや包丁など使用しているときは一緒に作業するようにし、終わった時点で声かけ、納得してもらい預かっている。包丁は台所が終わった時点で本数確認をするよう心掛けている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	歩行時は見守り厳守し、転倒防止に努めている。また食事時、誤嚥の危険のある方に関しては食前の氷での口腔内マッサージを行なっている。火災などに関してはまず、火を出さないを常に心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	研修に参加したり、急変時や事故発生時は代表より指示を仰ぎ何回か対応できているので、簡単な応急手当や初期対応はできると思う。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	研修に参加したり、事業所でも年2回は避難訓練を実施し、月一回全職員で自己点検を行い、災害に備えている。その際地域消防団や近隣の方も毎回協力して下さる。		訓練に参加して思うことは、一人では力に限界がある為、とにかく大きな声を出し、近隣の方に知らせることと、代表や他スタッフにいかに早く連絡するかだと思うので、いざという時も物おじせず、対応できるように心掛けていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時や毎月のお便りの中で相談したり、あるいは電話連絡時に家族には伝えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に見守りし、体調の変化や異変を早期発見できるように心掛けている。また、気がかりな方に関しては、出勤時、早出や、夜勤者に尋ねたり、必ず連絡帳に目を通し、把握するように心掛け、実際にそばへ行き状態把握をするようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が使用している薬の説明書は投薬管表に閉じ、誰でも見れるようにしている。また、服薬介助時は袋に記載してある名前を確認し、危険のないように心掛けている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因になるような薬を服薬されている方もおられるが、食材に根野菜を多く使用するように心掛けている。また、体操や、ドライブ、散歩で体を動かしたり水分及び乳製品も多く取るように心掛けている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後支援するようにしているが、拒否される場合は無理せず、気分の良い時に支援している。一人ひとりに応じた支援を心がけ週一回ポリデント消毒するよう約束ごととしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事制限のある方に関しては、主治医の指示を仰ぎ、調理の工夫をしている。また、好き嫌いのある方に関しては、好きなものを沢山食べていただくように心掛けている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルもあり、予防や対応の取り決めなどを把握している。また出勤時には必ずうがい、手洗いを施行、利用者の布団干し、日光浴など実行している。見学者や面会者にもうがい、手あらいの声かけをし実施してもらうように心掛けている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は新鮮なうちに使い、買いすぎない、作りすぎないようにする。また、残ったものは翌日まで残さず、その日のうちに処分する。また、衛生管理表をチェックし衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	古民家なので親しみやすさはそのままであるが、玄関周りには季節の花を植え、いつも清潔にしている。面会に見えた方が「普通の家で落ち着きますね」とおっしゃって下さるのは大変うれしく思う。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心がけ、空気が濁らないように朝一番には全部屋の窓を開け換気に努めている。また、冬には干し柿を下げ、春には、お雛様や鎧兜など床の間に飾り、菖蒲湯やゆず湯など季節感を味わってもらえるように心掛けている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	無理に場所を決めず、居間、外庭、食堂、自室と利用者が好きな場所で思い思いに過ごされるよう心掛けているが、落ち着きのない方にスタッフがつきっきりになると手薄になる為見渡せる範囲の場所に移動してもらう時もある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の決定は、殆どご家族がされるようである。枕や毛布などの寝具類は使い慣れたものを持ってこられる方もいる。また、アルバムや、化粧道具、髭剃りなど持ってこられる方もいる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、起床後は、窓や障子をあげ空気の入替えをしようにしている。また、室温に関しては、温めすぎず冷やしすぎないように心掛け、冷暖房器具の調節に心がけ、外気温と大きな差がでないよう努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や、浴室、トイレ、上り段などには、手すりを設けて安全に安心して自立した生活が送れるよう工夫している。また、他の場所で必要になったり追加が生じたときは事務所に報告及び相談している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレまでの廊下や、トイレの開け閉めなど利用者が混乱されないようにひらがなやカタカナで印をつけている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外庭には椅子をいくつも置いて自分の好きな椅子に座って貰うようにしている。気候が良くなると日光浴したり、洗濯物をたたまれたりする。また、草取りや花植えもできるように道具も備え活用してもらっている。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・建物が古民家で親しみやすい。